平成２６年度　学校経営計画

１　教育目標

（１）基本目標

・　心身ともに健康で，よく考えて判断する力と自主的に行動するたくましい実践力をもち，誠実で思いやりがあり，豊かな心を持った児童の育成を目指す。

（２）具体目標（具体的な児童生徒像など）

・　素直で，思いやりのある子（やさしく）

・　自ら考え，進んで学習する子（かしこく）

・　健康で，ねばり強い子（たくましく）

２　学校経営の理念

全職員が，本校で勤務することに誇りと責任をもち，愛と和をもって常に児童・地域とともに歩む姿を模索し，教職員としての資質を高め，家庭や地域社会との相互関係を深めながら，２１世紀をたくましく生きる児童の育成に全力で取り組むこととする。

３　学校経営の方針

（１）豊かな人間性の育成（やさしく）

・児童一人一人が心のこもったあいさつができ，また，お互いを認め合い，生き生きと輝いた生活が送れるようにするため「豊かな心育成全校運動」を推進する。

（２）確かな学力の向上（かしこく）

・基礎・基本を重視し，確かな学力の定着を図るため「チャレンジ学習全校運動」を推進し，めあてに向かって全力で取り組む児童を育成する。

（３）健康で安全な生活（たくましく）

・健康への意識向上を図るため「元気っ子活動全校運動」を推進する。

（４）　教職員の資質の向上

・使命感に徹し、共働体制のもと各自が特性を発揮し資質の向上を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]
　テーマ　自立　～よりよい判断をし、学習や学校生活に意欲を持って取り組む子どもの育成～

４　今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は，文頭に〇または該当箇所に下線）

（１）学校運営　　〇・地域や中学校園との絆を深め，地域人材の支援を得て体験活動を重視し，未来に向かって力強く頑張ろうとする意欲に満ちた児童を育成する。

（２）学習指導　　・「わかる授業」を通して、基礎的・基本的な学力を定着させる。
〇・家庭の協力も得、めあてに向かって自分から学習に取り組めるようにする。

（３）道徳教育（児童生徒指導）〇・思いやりと優しさを持って行動し，互いを認め合うと共に，豊かな表現力により自分の考えを伝え，自己有用感をしっかりと持つ。

（４）健康（保健安全・食育）・体力　・運動や健康に関心を持ち，自ら進んで健康力を高めていこうとする。

５　学習指導，道徳教育（児童生徒指導），健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

※　様式２～４参照

６　特色ある学校づくりに関する取組

（１）育てたい資質・能力

①課題解決のために，地域の人・自然・文化に自ら関わり，見通しをもって，主体的に学ぼうとする態度を育てる。

○②友達と協働し合う活動を体験し，思いやりをもって強調し合う心や，地域の人々との触れ合いを通し，感謝の心・社会性（コミュニケーション）や豊かな心を培う。

○③豊かな体験活動から得た知識や技能をもとに，積極的な表現力をもって，自分にできることを実践する態度を育てる。

④地域の理解を通し，地域に働きかけたり地域に貢献しようとしたりする意欲や身近な環境づくりを実践しようとする態度を育てる。

（２）具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」関連には文頭に◇）

◇①学校・家庭・地域の連携により豊かな心を育てる活動を推進する。

【重点活動名】「豊かな心育成全校運動」

・あいさつ運動の奨励（自分から先にあいさつ）　・学級経営の充実　・道徳教育の充実

・いじめを許さない態度の育成　・出前授業による触れ合い学習の展開　・正しい言葉遣いと豊かな表現力の育成　・地区内工業団地知の連携　・学校・学年・学級通信による親への啓発

◇②基礎・基本的な学習内容の確実な定着と積極的な表現力の育成によって，生き生きと意欲的に頑張る子どもを育てる。

【重点活動名】「チャレンジ学習全校運動」

・ぐんぐんタイムの充実(漢字・計算・音読・視写)・家庭学習の習慣化・漢字力、計算力検（チャレンジテスト）の実施　・豊かな言語能力の育成　・学習支援ボランティアの活用（体験的活動の充実）　・読書活動の奨励（読み聞かせ　月１回全クラスで）　・有名講師による模擬授業

◇③地域の支援や体験活動を重視し，たくましい心を育てると共に，自主的な運動を通して丈夫な体を育てる。

【重点活動名】「元気っ子活動全校運動」

・家庭と連携した生活習慣作り（早寝・早起き・朝ごはん）　・各種運動検定の実施

・食育（朝食、お弁当の日）との連携　・地震等の災害を想定した引き渡し訓練の実施

７　本市の重点施策・事業と関連する取組

（１）「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組

・全職員が４部会・10 分科会の中の１つに所属し、地域学校園の児童生徒の共通課題，重点的に取り組む内容，小中の指導を円滑に接続する方策等を協議し，必要に応じて共同の取組を実施していく。　・小中相互乗り入れ授業（国・算・英・実技教科）　・小６進学先中学校訪問

（２）「地域とともにある学校づくり」に関する取組

・魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協力により、地区内工業団地企業との連携を図り、出前授業や見学・体験学習を積極的に取り入れ、社会性や職業観を育成する基盤づくりに努める。

（３）「宮っ子心の教育」に関する取組

・心をはぐくむ教育活動推進事業の充実を図り、自然とのふれ合い活動、地域とのふれ合い活動、出前授業によるふれ合い学習を全学年で展開する。また、「みゆき学習スタンダード」との関連を図り、各プロジェクト毎に充実した活動を展開し、効果を上げるよう努める。

平成２６年度　学習指導に関する取組

１　学習指導上の主な実態

（１）学習内容定着度調査などから

・国語・・物語を読む力は，市平均よりよいか同じくらいであるが，説明文を読む力は，３年生を除いてかなり下回っている。書く力は昨年より向上したが，４年生で，指定された長さで書く・２段構成で書く・理由を付けて書くなど与えられた条件を満たして書く力がついていない。また，全学年とも話合いの内容を読み取る力が弱い。しかし，漢字の読み書きは概ね定着してきている。

・社会・・５年生は知識・理解で６年生では全ての観点で市の平均を下回った。

・算数・・計算問題は全学年ともおおむね定着してきている。３年生では、全領域・観点で市平均を上回ったが，他の学年では図形の問題が市平均より数ポイント低い。４年生の計算のきまりや５年生の単位量当たりの大きさ・計算のきまりなどが７から８ポイント低い。

・理科・・５年生では，観察と実験の技能を除いて市平均を上回った。

（２）学習と生活についてのアンケートから

「勉強が好き」では，全学年とも市平均を下回っている。「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」でも，１・５年を除いて市平均を下回っている。しかし，「先生や友達の話を最後まできちんと聞いている」は市平均を上回っている学年が多いことから，学習への興味・関心を高める工夫が必要と思われる。平日・休日ともにほとんど本を読まない割合が全学年とも市の平均を上回っている。家庭との連携をさらに進めていく必要がある。

（３）授業等への取組状況から

落ち着いた学習態度で授業に臨んでいる児童が多い。自分で考える→ペアやグループ→全体で話し合うといった言語活動の充実を図ることで，学び合いができるようになってきている。また，全校一斉の漢字・計算のチャレンジテストに向けて，自己達成目標を決め，根気強く学習に取り組む児童が増えている。今後も継続して基礎基本の力を伸ばしていく。

２　今年度の重点目標（地域学校園内で共通する重点目標は，文頭に○）

・分かる授業に努め学習への関心・意欲を高めるとともに，漢字・計算・音読・視写を中心に反復学習を徹底させ、基礎学力の習熟を図る。

・コミュニケーション力を育成するために、論理言葉や話し方・聞き方の指導、集団での学び合い活動を充実させる。

○・家庭と連携を図るため「みゆき学習スタンダード」の指導を強化し、保護者への周知を図る。

３　今年度の取組（地域学校園内で共通する取組は文頭に○，「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１）☆　基礎的・基本的な知識・技能の定着

・　ぐんぐんタイム（火・木）と音読・視写の時間(水)を利用した漢字・計算・音読・視写の反復学習を徹底する。

・　漢字・計算チャレンジテストの実施と称賛活動（７・１１・２月）

（２）言語活動を通した集団での学び合い活動の充実

・　失敗を恐れず安心して学び合う学級風土づくりを目指して、「話し方・聞き方」・「話し合いの仕方」の指導を充実させ，コミュニケーション力を高める。

・　音読指導・発表指導を通して表現力を高める。

・

（３）主体的な学習態度の育成と家庭との連携

・　みゆき学習スタンダードの指導強化

☆○　基本的な学習態度や学習技能を身に付けさせるための指導強化月間の実施(6,11 月)

☆○　家庭学習の習慣化のための保護者会・学級だより等での保護者の理解と協力への働きかけをする。

（４）読書活動の推進

・様々な本を楽しみ，活用できる児童を育てるために、読書まつりを中心に図書館行事の充実を図る。

・家読を推進し，読書への関心を高めるとともに豊かな心を培う。

（５）地域との連携・協力

☆「街の先生」などのボランティアや企業等による出前授業による学習支援の実施（通年）

平成２６年度　児童生徒指導に関する取組

１　児童生徒指導上の主な実態

（１）問題行動等調査から

暴力行為

・些細なことから児童同士のトラブルになることはあるが，問題行動等調査に該当する暴力行為はなかった。

いじめ

・いじめは２学期６年生で１件あった。隣のクラスの児童の報告により判明した。そのほかにも早期発見によりいじめまで発展しなかった事例もあった。どんな行為がいじめなのかを判断し、いじめがない学校，いじめに加担しない児童を育成していく必要がある。

不登校

・不登校児童は、１名であった。昨年度の４名よりも減少しているが，毎日保健室にしか登校できない児童もいる。不登校ではないが，担任と特別支援の学級担任と緊密に連絡を取り合い改善傾向にある児童もいる一方、怠惰等を原因とする不登校では、保護者の協力が得られず対応に苦慮することもあった。

（２）学習と生活についてのアンケートから

・「困っている友達に，自分から進んで手助けをしているか。」の肯定割合は４つの学年で市の平均を下回った。特に１・２年生において８ポイントほど下回っている。

・「言葉使いに気を付けているか。」の肯定割合は，全学年で市の平均を下回っている。言葉遣いに関しては，対策を講じてきてはいるが，なかなか改善されていない。本校の課題である。

・「家の人はあいさつや返事をすることの大切さを教えてくれているか。」の項目も，３年生以外の５つの学年で市の肯定割合を下回っている。「あいさつができない」と保護者や地域の方からの指摘もあるが，改善するためには保護者の協力も重要であると推測される。

（３）学校生活の状況から

・明るく素直な児童が多い。ここ数年，あいさつを進んで行う習慣が身に付いている児童が増えてきている。集会等では，静かに話を聞くことができる。主体的に活動したり，下級生の面倒を見たりすることができる児童も多い。一部ではあるが，まわりに流され正しい判断ができなくなってしまう児童もいる。

２　今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

○「相手を思いやる心を持ち，あいさつや正しい言葉遣いができる児童の育成

― 家庭・地域との連携を深め、明るく優しい子を育てる ―　」

３　今年度の取組（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○，「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１）　あいさつ・正しい言葉遣いの励行

☆○地域住民とのあいさつ運動の実施（月１回）

☆○あいさつクラス目標の設定と掲示

☆○時と場に応じたあいさつや正しい言葉遣いの指導強化（通年）

（２）　基本的生活習慣の育成

・基本的生活習慣の見直しと生活目標の設定（随時）

☆時間を守って生活する意識を育てる指導（通年）

・生活習慣強化月間における指導の充実（４・５月、９・１０月）

（３）　規範意識の醸成

☆集団生活における規律ある行動の育成（通年）

☆「みゆきよい子の１日」の徹底による規範意識の醸成

（通年・特別教室を含め全教室に掲示）

〇正しい自転車の乗り方の指導（長期休み前児童集会，７・１２・３月）

（４）　望ましい集団作り

☆互いに良さを認め合える学級集団作り（学級・通年）

・クラスで遊ぶ時間「わくわくタイム」の設定によりクラスの一体感を高める（通年）

・Ｑ－Ｕテストによる学級状況の把握と学級経営への活用（6月・１１月）

☆道徳の時間を中心にした，思いやりの心を育てる指導の充実（通年）

☆授業参観での道徳の授業の実施（年１回）

（５）　いじめを許さない態度の育成

☆「いじめゼロ運動」の推進（５月・９月）

☆いじめアンケートの実施（５月・９月・１月）

☆児童会主体の「いじめゼロ集会」の実施（１０月）

☆いじめを許さない態度や実践力を育てる授業の実施（学期１回以上）

（６）　個に応じた指導の充実

☆教育相談週間の実施（６・１１月）

・スクールカウンセラーの有効活用による児童の理解と対応（随時）

・朝の打ち合わせ等を利用しての，児童に関する情報交換（通年・毎週金曜）

・地域協議会との連携推進（年４回）

・地域の高齢者との交流会（年５回）などのボランティア活動の実施

☆親子読書の推進

・学校だより・学年だより・学級だよりの発信により家庭・地域との連携推進(通年)

（７）　自然・文化・芸術に親しむ感性の育成

☆グリーンカーテン，花，野菜を育て自然に親しむ緑化活動（通年）

☆芸術鑑賞会（演劇・音楽）の実施（年１回）

（８）　家庭・地域・関係機関との連携

☆「魅力ある学校づくり地域協議会」「保護者会」における学校理解のための説明と協力依頼

（随時）

・地域協議会との連携推進（年４回）

・地域の高齢者との交流会（５・６年生　年５回）などのボランティア活動の実施

☆親子読書の推進

・学校だより・学年だより・学級だよりの発信により家庭・地域との連携推進(通年)

・スタンダードダイアリーの活用による生活習慣の見直しと保護者との連携（随時）

平成２６年度　健康（保健安全・食育）・体力に関する取組

１　健康（保健安全・食育）・体力に関する主な実態

（１）定期健康診断・元気っ子健康体力チェックから

・児童の体位については，ほとんどの学年が県と全国の平均を上回っている。う歯の状況については罹患率がとても高いが年々治療率は上がってきている。長期休業前などを利用して治療勧告を行い家庭との連携を図っている。

・うつのみや元気っ子体力チェックの結果から，本校の児童は全体的に見ると体力が低い。特に本校の児童が劣っている項目は，「長座体前屈」「反復横とび」「２０ｍシャトルラン」「５０ｍ走」である。その中でも「５０ｍ走」については，６年生男子を除いて，男女ともにどの学年も宇都宮市の平均に達していない。

（２）元気っ子健康体力チェックのアンケート及び学習と生活についてのアンケートから

・学年間に多少のばらつきはあるものの，授業に対しての関心は高く，学習に前向きに取り組もうとする児童が多い。

・給食後の歯みがきはどの学年も習慣化されている。

・「朝食の有無」については，全学年共に，毎日食べるという児童が多い。一方で，全く食べないという児童については，中学年・高学年になると増加する傾向がある。

（３）授業や健康安全・体育的行事等への取組状況から

・体育の授業や体育的行事にはほとんどの児童が意欲的に取り組んでいる。

・休み時間の外遊びを勧めるために，備品として各クラスに様々な種類のボール（ドッジボール，ディンプルボール等）を置いている。その結果，外で遊ぶ児童が増えるとともに，投力が高まってきている。

・昨年度の始業前自主ランニングには，２５０人を超える児童が参加した。12 月から２月までの３ヶ月間，毎朝実施した。参加することによって，冬季に外で活動する児童が増え，自ら体力向上に努めようとする児童が増えてきた。

２　今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

・運動や健康に関心を持ち，自ら進んで健康力を高めていこうとする児童の育成。

・体育の授業において，子ども同士が学び合えるような授業が実践できるよう，教材研究を行い授業の進め方を工夫する。

３　今年度の取組（「小中一貫教育・地域学校園」に関する取組は文頭に○，「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に☆）

（１）健康・体力の向上

○☆元気っ子健康体力チェックの結果を踏まえた補強運動の充実（通年）

○☆水泳検定（鬼怒学校園共通）やなわとび検定の実施（７～９月，１２～２月）
・昼休み・業間時における校庭の有効活用と，ボール等を充実させることによる運動の習慣化
・各教科・特別活動における養護教諭と連携した保健に関する指導の実施（随時）
・元気っ子活動全校運動の推進（家庭と連携した生活習慣作り，各種運動検定の実施，食育・保健との連携，地震等の災害を想定した引き渡し訓練の実施等）
・宇都宮マラソン大会参加への奨励
・わくわくタイムの縦割り班遊び
・運動委員会によるなわとび検定項目の紹介（１１月）
・始業前自主ランニングの実施（１２月～２月）

（２）食育の推進
☆朝食をとっていない児童への個別指導の実施（通年）
☆給食指導における「食を大切にする心」の育成（通年）
☆各教科・特別活動における学校栄養職員と連携した食に関する指導の実施（随時）
・食育だよりによる食育の啓発（通年）
☆お弁当の日の実施（年２回）

（３）家庭や関係機関との連携協力
☆元気っ子健康体力チェック結果の通知と，「元気っ子だより」による健康・体力向上の啓発（随時）
・保健だよりによる健康の保持増進への啓発（通年）
☆保護者や地域との協力による登下校の安全確保（通年）
☆市役所と連携した子ども自転車免許事業や交通安全教室の実施（１０月）
☆スクールガードと連携した防犯訓練や避難訓練の実施（５月，９月，１２月）